

知らせたい! 私の発見 西和賀

西和賀町の沢内小(熊沢裕樹校長、児童57人)の4年生は、伝える相手や伝えたい内容を意識したオリジナル新聞を完成させた。国語の単

元「聞いて、見て、知らせたい! 見せ方を工夫して新聞を作ろう」で、担任の上和野裕貴教諭(38)は、プラス日報の新聞製作ツール「クミハ

ン」を活用した授業を展開した。

テーマは「4年生1学期76日の驚き、喜び、大発見を全校のみんなに伝えよう」。題材に縛られることなく、体験や学習活動を書けるよう広く設定した。

授業は全11時間構成で、まず新聞の特長を学習。見出しや写真を使い、読みやすく作られていると確認した。授業は情報の絞り込み、読み手の想定、情報収集と比較検討、執筆、推敲へと続く。クミハンはレイアウトの検討(3時

間目)と新聞作り(7~10時間目)で使用した。

児童は、写真の効果や相手を意識した書き方など、学んだことを振り返りながら進めた。高橋渚月さんと加藤パーカーさんは「読みやすいように言い回しを考えた」「みんなが楽しめる新聞にしたい」と笑顔で取り組んだ。

上和野教諭は「人に伝えるアウトプットの力、書く力をつけさせたい」と狙いを語り「新聞は多くの人に伝えるツールとして優れていることを子どもたちに知ってほしい」と強調した。



沢内小4年生が作った新聞



それぞれの紙面をより良くしようと話し合う児童

岩手日報社が提供する学校向け新聞活用プログラムです。児童生徒の読解力や情報リテラシーの向上を図るとともに、授業に活用できるコンテンツで先生方をサポートします。

利用できる機能は?

①デジタル版紙面の閲覧 ②過去約20年分の記事検索 ③新聞記事を題材にしたワークシート ④新聞製作ソフトなど。そのほか震災復興やふるさと学習、進路学習をサポートするコンテンツを提供しています。

どう使われている?

朝学習で新聞を読んだり、行事を振り返る個人新聞作りなど多様に活用されています。2025年度当初時点で、県内の公立小中学校の約40%の学校が利用しています。

先生から



久慈中 深沢 馨大教諭(22)
学生時代に被災地でのボランティア活動に携わったこともあり、プラス日報を震災学習に役立てたいと考えている。検索機能は過去の記事だけでなく、写真も一緒に見られる。言葉だけでは伝えきれない当時の状況を、写真も交えながら想像してほしい。

生徒から



久慈中3年 佐々木 学さん
過去の新聞を読める記事検索機能に驚いた。自分の生まれた日の新聞を見るのも面白そうだ。出前授業を受けて新聞を読むコツが分かったので、普段よく読むスポーツ面だけでなく、他の面も読んでみたい。



指導案はこちら。
本年度末まで公開

ご依頼はこちら!

「+日報」についてより詳しく知りたい方は、岩手日報社プラス日報事務局の専用フォームからお問い合わせください。

